

特別インタビュー サレジオ会総長

@ サレジオ会ローマ本部

いつも明るく前向きに、

今回の来日に先立ち、

日本の人びとへの思い、 今年5月、サレジオ会ローマ本部にてインタビュー。 サレジオ会総長パスクアール・チャーベス神父に、

若者へのメッセージを語っていただきました。

2回目の来日ですね

前回2004年に訪問された時の印象はいかがでしたか?

い起こし、豊かな実りを目にする恵みをいただきました。 崎では、サレジオ会員として最初に日本へ渡ったチマッティ神父の働きを思 特に浜松ではブラジルからの移民をサポートする活動を視察しました。 宮 な場でサレジオ会らしく存在していることに、とても好感をもちました。 サレジオ会が学校教育、教会、宣教活動など、必要とされるさまざま

日本の若者について、どのような印象をもたれましたか?

とをよく自覚しています。技術面での能力の高さにも感心しました。 でした。たとえば、人生に対しての真剣さ、勤勉さです。自分さえよけ ればではなく、良い国であるための責任は国民一人ひとりにかかっているこ :本の文化に深く根ざし、東洋的な長所をもつ若者たちの姿が印象的

若い頃は、どんなことが好きでしたか?

にアメリカンフットボールですね。サッカーは、神学校に入るまではしたこと チームはセントルイス・カージナルスでした。 その後はバスケットボール、それ 生まれたので、私にとって野球が一番身近なスポーツだったのです。 好きな をしていました。日本では野球が有名ですね。アメリカ合衆国の近くで た大きな恵みの一つです。それから、スポーツです。子どもの頃から野球 書が好きで、がむしゃらに本を読んでいました。これは神が与えてくださっ 私は、いろんなことに興味をもつ少年でした。 たとえば、幼い頃から読

> がなかったです(笑)。あとは、馬に 乗ること、陸上競技、

趣味は、映画です。 くことも好きでした。

いた時は、神学生たちを毎年国際映画祭に連れて行ったものです 映画を見るのが好きです。かつて神学校の院長をして

若い頃はどんな夢をもっていましたか?

ことをすべて志願院で見つけることができました。時がたつにつれて成熟し、 願院に入りましたが、最初の瞬間から自分の家にいるような気持ちでした。 サレジオ会の司祭になりたいという動機を明確にし、神から与えられた使命 したい、成長したいと、多くのことを望んでいましたが、私は自分が望む とても家庭的で、刺激にあふれた環境でした。 読書をしたい、スポーツを (召命)を識別し、その道を生きるために自分自身を磨いていきました。

好きなドン・ボスコの言葉は何ですか?

向かうチャンスがあることを信じ、教育者としてその芽を発見し、育て、 はとてもひかれます。彼はとても人間味あふれる人でした。たとえば、ど てください」という言葉です。ドン・ボスコの生き方のポジティブさに、私 んな若者も聖人になれること、どんなに不遇な状況にある若者でも善に ドン・ボスコの有名な人生のモットー「私に魂を与え、他のものは取り去っ





君たちと共に幸せになりたい」 心からそうありたいと願っています。 ために生涯 強めていくという使命に情熱を注ぎました。 「私の人生は君たちのためにあり、 をささげようと望みました。 神から与えられた贈り物なのだと理解 と呼びかけたくなります 私も若者と出会うと、 自分の存在は、 人生を君たちと共に分かち合い ドン・ボスコは、 したのです。 人のため、 ドン・ボスコの 若者の幸せの 若者

日本の皆さんにメッセージをいただけますか? まず若者たちへ

であるために、 であることを願っています」というドン・ボスコの願いを伝えましょう。 分自身について、 本の若者の皆さんには、 1つ目に、 自分の可能性について、 明るく前向きな見方を身につけてください 「私は君たちが今も、 これ からもずっと幸せ 幸せ 自

唯

族について、

社会での生き方について、

明る

に良いもの、美しいもの、真実なものを見

く前向きに物事を見るのです。

それらの中

いだすことができれば、

私たちは幸せだから

総長 Fr. Pascual Chávez V. 1947年メキシコ北部のレアル・ド・ カトルセで生まれる。11 歳でサレジ 院に入り、26歳で司祭叙階 教皇庁立聖書研究所で聖書 スペイン・サラマンカ 聖書学博士課程修了。 コのサレジオ神学院院長、グァダラハ

パスクアール・チャーベス

がまさに人生の大きな選択をする時だから

略歴

若さと思春期が大切なのは、

者自身の手の中にある」ことを理解してく

2つ目に、 「若者たちの未来は、

趣味はスポーツ、読書、映画鑑賞 語学が得意で、スペイン語のほか英 イタリア語、ドイツ語、フランス語 ヘブライ語を話す。

米地域顧問を歴任。2002年4月3 日よりサレジオ会総長を務める。

区管区長、最高評議会の北・中



に仕えることができるのです る脅威ではない」ということです。 もち、 とができます。 3つ目に、ドン・ボスコも言っていますが、 喜びと落ち着きをもって人生に立ち向かうことができる力をもつこ 若者たちのあらゆる能力や可能性を伸ばしておけば、 そうではなく、 幸せでありながら、 「神は幸せに対す

将来自信を

サレジオ家族の皆さんに。

ビジョンをもって達成すべき大きな目的を目指しながら共に働くということ グループのために、 の憲章はとても貴重な贈り物です。 を学びましょう。 私たちのいる場所でよりしつかりした存在を確立するために、 私たちは「サレジオ家族のアイデンティティーの憲章」 同時に、 グループ間でより多くの相乗作用を生み出すために、 それぞれのグループは自立していること、 私たちのアイデンティティーのために、 を定めました。 しかし共通の ぜひ学んで

被災者の皆さんへの

のか?」 と共にしてくださっています。 を共にしながら、 てはなりません。 うという姿勢。このような苦難を前にしていつも 連帯感、 この艱難を前にしての日本人の姿に、大変感銘を受けました。 ということです。 かるものではありません。 私はあの津波の映像を前にして大変心を痛めていました。 死に打ち勝つことができる という疑問が浮かび上がります。 他人への意識、 私たちはイエスの十字架を黙想しながら、 そこにいるのです。 「神は共にそこにいるのです」と。 次に起こってくる疑問は 決して落ち込むことなく新しい社会を築いていこ その希望とは、 「愛」 と同時に、 なのだ、 その明らかな答えは決して見つ 最後に残るのは死ではなく ということなのです。 神はその希望をも私たち 「なぜこんなことが起こる 「神はどこにいるのか? 神はこの不当な苦しみ こう言わなく その団結力 同

サレジオ会 75th Anniversary of Japan Province

日本管区誕生75周年

2012 年 12 月 20 日、サレジオ会日本管区は誕生 75 周年を迎えます。

ドン・ボスコはサレジオ 会の宣教師を海外へ派遣し 続け、いつか日本に渡るこ とも夢見ていました。日本 には、サレジオ会の宣教活 動 50 周年記念事業として



1925年に派遣され、翌年チマッティ神父を団長とする9人の会員が来日。1927年、宮崎・大分両県の宣教司牧を委託されました(後に大分教区に移譲)。1937年12月20日、サレジオ会日本管区として独立。日本からは韓国とソロモン諸島に宣教師を派遣し、サレジオ会事業を開始してきました(韓国は1972年に準管区に独立、ソロモン諸島は2005年にフィリピン管区に移管)。

日本のサレジオ会の事業 -

■ 教会・ユースセンター・滞日外国人支援

宮崎でサレジオ会の事業をスタートして以来、数多くの教会の設立・司牧にたずさわってきました。現在、中津 (1927年司牧開始)、別府 (1932年)、三河島 (1933年)、碑文谷 (1949年)、下井草 (1949年)、杵築 (1953年)、調布 (1954年)、足立 (1967年)、鷺沼 (1971年)、愛野 (1974年)、大和 (2005年)、浜松 (2007年)、鈴鹿 (2008年) の各教会を担当し、滞日外国人の司牧も行っています。ユースセンターの活動など子どもたちの活気であふれるのもサレジオの教会の特徴です。

■ 出版・メディア

日本語習得や大恐慌による経済的問題に苦労しながらも、来日2年後の1928年、月刊「カトリック生活」の前身となる「ドン・ボスコ」を創刊。1930年には出版事業部ドン・ボスコ社



をスタート。出版物やメディアをとおして、ドン・ボスコの精神と キリストの福音を発信しています。

■ 児童福祉

貧しくよりどころのない子どもたちのための寮に始まり、終戦後は 戦災孤児救済のために孤児院を設立。現在は児童養護施設や保育園 を運営しています。



- 聖ヨゼフ寮 (1933年創立)
- ドン・ボスコ保育園 (1934年)
- 東京サレジオ学園 (1946年)

■ 学校教育

ドン・ボスコの予防教育法の実践を通して、カトリック精神に基づいたよき社会人を育成することを目標に学校教育を行っています。

- サレジオ高専 (1934 年創立)
- 日向学院中学校·高等学校 (1946年)
- サレジオ小学校・中学校 (1947年)
- ●大阪星光学院中学校·高等学校 (1950 年)
- サレジオ学院中学校・高等学校 (1960年)
- 目黒サレジオ幼稚園 (1949年)
- ●海の星幼稚園 (1952年)
- 足立サレジオ幼稚園 (1967年)
- サレジオ学院幼稚園 (1968年)
- 小さき花の幼稚園 (1974年)

■ 青少年司牧・ボランティア

毎年夏に小中学生を対象に開催する「野尻湖少年聖書学校 |

は 40 回を迎えました。「ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ」は、2011年に 20 周年を迎えました。 国内でのボランティア活動も実施。 若者たちが出会い、さまざまな経験を分かち合う場を運営しています。



■ 神学院・修道者養成

将来司祭・修道者になることをめ

ざして共同生活する志願院、神学院を開設。現在は三重のジュニア志願院、東京のシニア志願院・神学院で、若者たちがサレジオ会員への道を歩んでいます。

日本のサレジオ家族

Salesian Family in Japan

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たちを、サレジオ家族(サレジアンファミリー)と呼んでいます。 世界 130 以上の国で、30 団体、40 万人以上のメンバーが、 学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい 人々のために奉仕しています。

日本では8グループのサレジオ家族が活動しています。



サレジオ会

世界の会員数:16,000 人 日本の会員数:109 人(13 支部)

青少年のために働く男子修道会。1859年、ドン・ボスコにより創立。日本では、教会・ユースセンター、学校教育、児童福祉、出版、滞日外国人の支援、国際ボランティアなどの事業に携わり、とくに青少年教育とキリストの愛を伝えるために献身しています。

VDB (ドン・ボスコ女子在俗会)

世界の会員数:1,300人 日本の会員数:3人

1917年、サレジオ会第4代総長のリナルディ神父により創立。召命の場は各自の生活の場、特に職場と教会にあり、仕事においてブロであること、経済的な自立、精神的な成熟が求められます。 VDBには三誓願があり、奉献者であることには沈黙を守ります。

ウニオーネ

(扶助者聖母会同窓会世界連合)

サレジアン・シスターズの学校・施設で 身につけた精神を実社会の中で継続し て生かし、証しすることを目的としてい ます。

サレジアン・シスターズ

世界の会員数:13,400人 日本の会員数:254人(15支部)

青少年のために働く女子修道会。1872年、ドン・ボスコとマリア・マザレロにより創立。日本では、教会・ユースセンター、学校教育、児童福祉、国際ボランティア、カウンセリング、滞日外国人の支援などの事業に携わり、青少年のために献身しています。

扶助者聖マリアの会 (ADMA)

世界の会員数:35,000 人 日本の会員数:17 人

御聖体の崇敬と扶助者聖マリアの信心を促進する信徒の祈りの会。1869年、ドン・ボスコにより創立。聖マリアを模範とし、教会と一致しながら典礼・聖体・ゆるしの秘跡を中心とした信仰生活を求め、若者と司祭・修道者の召命のために祈ります。

サレジオ会同窓会世界連合

サレジオ会の学校・施設で身につけた人間的・宗教的価値観を分かち合い、証しすることを目的としています。

※データは 2012 年 1 月現在

サレジアニ・コオペラトーリ

世界の会員数:30,000 人 日本の会員数:136 人(12 支部)

サレジオ会やサレジアン・シスターズの 指導を受けながら協働者として生きる一般信徒の会。1876年、ドン・ボスコにより創立。社会生活を営みながら、弱い立場の人、特に青少年に強い関心を持ち、教会の一員として奉仕しつつ、自己の養成に励みます。

イエスのカリタス修道女会

世界の会員数:1,000人 日本の会員数:450人(47支部)

とくに貧しく小さい人びとのために働く 女子修道会。1937年、カヴォリ神父と チマッティ神父により日本で創立。現在 は15 か国に広がり、児童福祉、高齢 者福祉、医療、教会、学校教育などの 事業に携わり、人びとに神の愛を伝える ために献身しています。











ドン・ボスコの風



http://www.facebook.com/dbnokaze

ドン・ボスコの仲間たちとつながろう! 心いいね! をクリック!

サレジオ会の歴代総長たち Successors of Don Bosco

1841年、ドン・ボスコは貧しくよりどころのない若者たちのために、イタリ アのトリノで「オラトリオ」を始めました。オラトリオは運動場、夜間学校、 仲間作りと祈りの場となり、やがて寮、職業学校、普通科学校もできました。

1859 年 12 月 18 日、ドン・ボスコと― 緒に働きたいと願う 17 人の教え子 たちと共に、神と助けを必要とする青少年のために生きる「サレジオ会」とし て歩み始めます。ドン・ボスコの精神はサレジオ会員やサレジオ家族に受け 継がれ、現在では世界130以上の国に広がっています。

≪初代•創立者≫

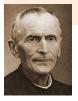


ジョヴァンニ・ボスコ

 $(1815 \sim 1888)$ 【在任期間 1859~1888】

若者たちのための教育と魂の 救いのために生涯をささげ、 サレジオ会を創立。

≪第2代≫



ミケーレ・ルア

 $(1837 \sim 1910)$ 【在仟期間 1888~1910】

ドン・ボスコの教え子として 精神を忠実に伝え、会の基盤 作りと海外宣教に尽力。

≪第3代≫

パオロ・アルベラ

 $(1845 \sim 1921)$ 【在仟期間 1910~1921】

サレジオ会の霊性を深め、卒 業生や協力者と協働するよう 精神を広めた。

≪第4代≫



フィリッポ・リナルディ

 $(1856 \sim 1931)$ 【在任期間 1921 ~ 1931】

初代スペイン管区長。サレジ オ家族を発展させ、チマッティ 神父を日本に派遣。

≪第5代≫



ピエトロ・リカルドーネ

 $(1870 \sim 1951)$ 【在任期間 1932~1951】

教育事業、宣教師派遣、出 版など、会の事業を組織化し 飛躍的に発展させた。

≪第6代≫



レナート・ジジョッティ

 $(1892 \sim 1983)$ 【在任期間 1952~1965】

戦後の混乱期に世界中を視 察、会全体の連帯感を強め 活気づけた。1955年来日。

≪第7代≫



ルイジ・リッチェリ

 $(1901 \sim 1989)$ 【在任期間 1965~1977】

第2バチカン公会議による変 革にあわせ、サレジオ会会憲 を改訂。1974年来日。

≪第8代≫



エジディオ・ヴィガノ

 $(1920 \sim 1995)$ 【在任期間 1977~1995】

教皇とバチカンのために貢献 し、第三世界の問題にも取り 組んだ。1987年来日。

≪第9代≫



フアン・ベッキ

 $(1931 \sim 2002)$ 【在任期間 1996~2002】

対話と発信により、青少年 司牧の刷新と活性化に尽力。 1993年副総長として来日。

≪第10代・現総長≫



パスクアール・チャーベス

 $(1947 \sim)$ 【在任期間 2002~】

知的で明晰な精神をもち、忍耐 強く対話する行動の人。聖書学 者。2004年、2012年来日。

